

製品名: ANPEP マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM81419**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	110kDa

抗原情報

遺伝子名	ANPEP
別名	APN; CD13; LAP1; P150; PEPN; GP150
遺伝子 ID	290.0
SwissProt ID	P15144
免疫原	大腸菌で発現したヒト ANPEP (AA: Extra(781-967)) の精製組換え断片。

背景

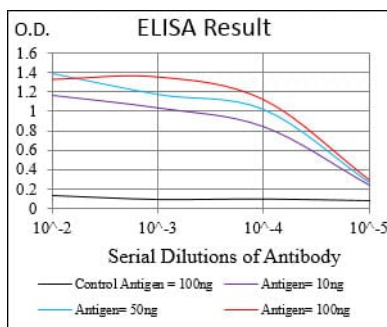
アミノペプチダーゼ N は、小腸および腎臓の微絨毛膜、ならびにその他の細胞膜に局在する。小腸において、アミノペプチダーゼ N は、胃および膵臓のプロテアーゼによるタンパク質の加水分解で生成されたペプチドの最終的な消化に関与する。近位尿管上皮細

胞およびその他の細胞種におけるその機能はあまり明らかではない。大きな細胞外カルボキシ末端ドメインには、亜鉛結合メタロプロテアーゼスーパーファミリーのメンバーに特徴的なペンタペプチドコンセンサス配列が含まれる。このクラスの既知酵素との配列比較により、CD13とアミノペプチダーゼ N は同一であることが示された。後者の酵素は、小腸および腎臓の尿細管上皮細胞、マクロファージ、顆粒球、および中枢神経系のシナプス膜など、多様な細胞種による調節ペプチドの代謝に関与していると考えられていた。ヒトアミノペプチダーゼ N は、上気道感染症の重要な原因となるヒトコロナウイルスの一種の受容体です。この遺伝子の欠陥は、様々な種類の白血病やリンパ腫の原因となると考えられています。

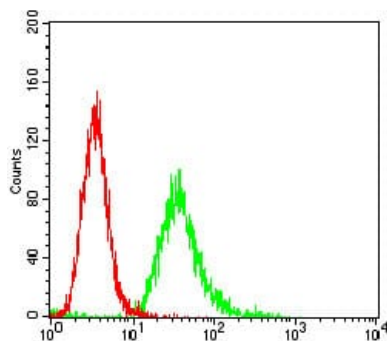
研究分野

-

画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng); 紫線: 抗原 (10 ng); 青線: 抗原 (50 ng); 赤線: 抗原 (100 ng);



ANPEP マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した HeLa 細胞のフローサイトメトリー分析。